
野生下における淡水カメ類の餌資源を巡る関係について

河原優介・亀崎直樹

700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学動物自然史研究室

Relationship of freshwater turtles to food resources in the wild.

By Yusuke KAWAHARA and Naoki KAMEZAKI

Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan

水中カメラ (GoPro 社製) を用いて淡水カメ類の水中における採餌行動を観察・分析し、野生下における餌資源を巡る種間・種内関係を調べた。岡山県内を流れる 7 河川に誘引餌のマイワシを装着した水中カメラを 2024 年 5 月 14 日から 12 月 13 日の期間に計 45 カ所設置した。7 河川はそれぞれ小田川、高梁川、足守川、笛ヶ瀬川、旭川、百間川、八塔寺川である。動画はカメ類が出現してから出現しなくなるまでの間に、誘引餌に近づいた種と個体数を 5 秒間隔で記録した。また同時に捕獲調査を行い生息密度の指標である CPT (捕獲数/網数) を求めた。その結果、動画に出現した種はミシシッピアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンであった。45 カ所中 20 カ所でカメ類が撮影され、うち 6 カ

所で 2 種以上が撮影された。**表 1** は 6 カ所におけるカメ類の撮影時間およびその割合と種別の CPT を表している。アカミミガメは他のカメ類と比較して出現割合が高く、2 個体以上の出現割合も高いことが分かる。足守川ではアカミミガメの CPT は低いもののアカミミガメの出現割合は CPT の高いクサガメよりも高かった。また、他の 3 種で複数個体撮影されたのはクサガメ 1 例のみであった。この結果から、アカミミガメの摂餌欲求が他種に比べて高い傾向があることが推察される。さらに、6 カ所全てにおいて誘引餌を巡る嗜みつき等の直接的な闘争行動は一度も確認されなかった。現在日本に生息する淡水カメ類は採餌において種内および種間で直接的な闘争をしないと考えられた。

表 1. カメ類の撮影時間の割合と CPT (6 カ所の地点ごと)

NO.	河川名	総撮影時間 (分)	カメ類 出現時間 (分)	カメ類撮影時間における種別の撮影割合 (%)						CPT			
				アカ 1個体	アカ 2個体以上	クサ 1個体	クサ 2個体以上	イシ 1個体	スッポン 1個体	アカ	クサ	イシ	スッポン
3	足守川	109	63	67.4	1.1	19.8	0	0	23.6	0.67	2.00	0	0
13	百間川	76	7	62.3	0	37.7	0	0	0	2.37	0.26	0	0.05
16	笛ヶ瀬川	83	25	34.4	41.1	28.9	12.4	0	19.8	1.63	0.63	0	0
18	笛ヶ瀬川	77	24	60.2	32.5	9.9	0	0	0	1.63	0.63	0	0
20	笛ヶ瀬川	93	69	22.0	78.0	1.1	0	0	0	1.63	0.63	0	0
29	高梁川	103	28	0	0	31.3	0	70.1	0	0	0.33	0.33	0